

3月18日 卒業生による講演会

3月18日（金）、終業式後に、「卒業生による講演会」を行いました。8名の卒業生が登壇し、今年の大学入試での体験を発表しました。1、2年生全員がアカシアホールで卒業生の話に耳を傾けました。発表は、学習の工夫、部活動との両立に向けた努力、志望を固めたいきさつなど、具体的なアドバイスに溢れ、1、2年生は皆、メモを取りながら熱心に聴き入っていました。

最後の質問の時間には、1年生から、「大学に行ってやりたいことは？」とあり、8人がそれぞれに抱負を一言ずつ言いました。温かく和やかな雰囲気にも包まれ終了しました。



【発表者の合格大学紹介】

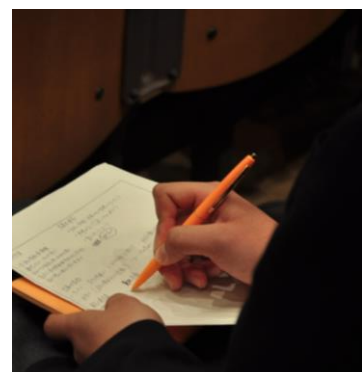
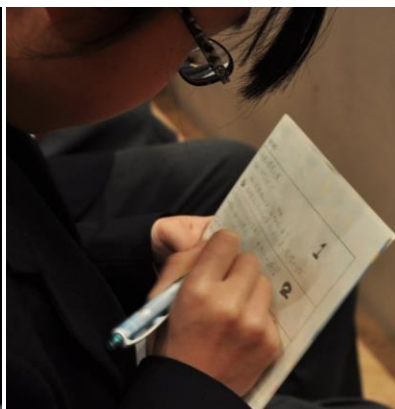
- 1、神戸大学 経済学部 経済学科
- 2、広島大学 教育学部 第一類初等教育教員養成コース
- 3、広島大学 教育学部 第四類音楽文化系コース
- 4、東京工業大学 第4類
- 5、東北大学 理学部 地球科学系
- 6、九州大学 理学部 物理学科
- 7、東京外国語大学 国際社会学部
- 8、一橋大学 経済学部



【発表内容抄録】

- 舟入に来ていなかったら、志望する大学への合格はなかった。合格した要因は、周りの環境だった。
- 3年生になってからは、毎日7:30から登校し学習した。塾には行かず、それを自分のプライドとして頑張った。
- 新2年生へ…週末課題、考査週間の学習をしっかりやればそれで十分である。
新3年生へ…今日から始めよう。
- 目先の学習ではなく、将来の大きな目標に向かって計画を立て、自由な考え方で向かうのがよい。無理をしすぎてはいけない。様々なアドバイスに耳を傾けるのは大切だが、一度自分の中に入れて消化して考えることが大切だ。
- 塾には3年間通わなかった。自分は時間に縛られずやりたかった。学校で十分である。

- 英語が苦手な人は、本当に早めに、できるだけ早く取りかかろう。
- 多くの問題にあたろう。自分は、合格大学の問題を18年分やった。
- 新2年生へ…古文単語、英単語を今から始めよう。繰り返すことが大切。
- 「土ゼミ」には積極的に参加してほしい。普段授業で扱わない内容や、弱点を補強するような講座が準備されている。それを利用すべきだ。そして、土曜日にわざわざ補習のために学校に来ることで、意欲が向上する。
- 新3年生へ…苦手なものは、今からはっきりさせよう。模試直しを今からやろう。筆記が苦手でその対策に追われ、リスニングがほとんどできなかったが、例えば、センター試験では、筆記で160点取れても、リスニングが20点だったら、英語全体では、144点になってしまうので、リスニング対策は重要である。
- 「ヴィンテージ」はよい参考書だと思う。センター試験200点のうち文法事項は40点以上ある、早く対策をしよう。
- 国語がとても苦手だったが、センター試験本番の最後は得点できた。「苦手でもどうにかなるものだ」ということが、二次試験に向かう中で支えになった。
- 志望校について、実はぎりぎりまで迷い、曖昧だったが、ある日、『夢のトビウ』というテレビ番組をふと見た時に、「流体力学」に関する内容に興味を持った。答えは、どんな時に見つかるかわからないが、「探し」てみなければ見つからない。
- 教科の質問に行ったある時、「仙台」はとてもいい所だという話を聞いたことが、志望大学決定につながった。専門以外のところにもヒントはある。いろいろな先生と話をしてみるとよい。
- 塾には行かなかった。学校の自習室を利用した。自宅の近所の公民館も利用した。
- 面白いマンガの内容は、自然に話を覚えるように、どんなことも「楽しい」と思わないと頭に入らない。自分は、「新しいことを知ることは楽しいこと」と思いこんでやった。受験勉強は、あっという間に終わった。



- 2年生のころまでは、ふらふらしていたが、自分の興味のあることを、いろいろな方向から調べた。そうすることで、「やらなければいけないこと」が見えてくるようになった。ひとつのことを「いろんな方向」から見ていくのがよい。
- クラスの雰囲気はとても大切だ。自分のクラスは、放課後でもたくさんの仲間が残って学習していた。他のクラスの人に来てやることもあった。少し怠け癖がある方だったので、やらない人に流されがちだったが、このクラスにいただけで集中できた。クラスの雰囲気は、みんなで協力して作るとよい。
- 朝は早くから、放課後は夕方7時まで毎日学校で学習した。最初、一日10時間の学習と言われ、そんなにできないと思っていたが、「いつの間にか」10時間やるようになっていた。11時間、12時間でも足らなくなった。「いつの間にか」そうなれるものだ。
- 合格大学の模試の判定は、3年間、C、D判定だった。が、いつも、「合格最低点」まであと〇〇点と距離を計っていた。
- 部活動は引退するまで続けることに意味がある。生徒会、部活動と両方やっていて、やめたいと思ったこともあったが、最後は意地で続けた。が、それが自信になった。最後まで完全燃焼してから、シフトチェンジすればよい。「何かを最後までやり通すこと」が大切だ。
- 志望大学のオープンキャンパスには2回行って、行きたい気持ちが高まった。
- 3年生の初めは、世界史が28点だったが、「悲しんでいるヒマなどない。」と思ってくよくよせずに頑張った。自分専用のノートを作り、空き時間には友達と問題を出し合って覚えるようにした。世界史に関しては、いろいろ問題集をやったが、結局最後に残ったのは、「教科書」「資料集」「用語集」この3つだった。最後本番では、世界史は92点だった。
- 「受験は団体戦」という言葉を最初は疑っていたが、やはり本当だった。本番の受験は、「個人戦」だが、そこまでは、周囲の支えがあったからだ。やはり、「受験は団体戦」だった。
- この場に立って「合格体験」を語ることが、1年前のひとつの目標だった。1、2年生のみんなも、来年、再来年、この場に立って話をすることを目標にしてみしてほしい。
- 普段の学習でイヤホンをつけてやっている人は、やめよう。本番の受験では、イヤホンをつけることはできない。「〇〇大学の15年」というような問題集は、難易度順に並んでいるが、本番では、難易度を自分でみきわめないといけない。難問を見極める力のようなもの、「見えない能力」も本番では必要だ。今年のセンター試験では、実は、英語のマークをずらす痛恨のミスをした。これも、マークを塗る練習をしていなかったからだ。「学力」×「本番力」＝「合格力」だと思う。
- 「学力」は、「整理」できる力だ。1人ではできない。先生の力を借りよう。舟入の先生は力を貸してくれる。また、積極性をもつことが「学力」につながる。
- 現役の時、模試の翌日の校内速報版で自分の校内順位をみてうかれるようなところがあった。
- うまくいかなかった時は、絶対に「挑戦」を選ぶべき。
- 「浪人」して、本質を学ぶことができた。新しい公式を覚えたわけではない。

【大学に行ってやりたいことは】～一言コメント～

★日本の経済を支える人になるよう学びたい。

★県外に出て、自炊など、様々な経験をしてみたい。

★子どもの気持ちがわかるように自分の感性を磨きたい。

★中学校の音楽の先生になりたい。ピアノをもっと上手になりたい。

★お友達を作りたい。

★フランス語、スペイン語、中国語、アラビア語に習熟して、「舟入から世界」を実現させたい。

★「きれいな心」のままで「物理」を極めたい。

★とりあえずしっかり勉強したい。が、やはり遊びたいのも本当です。